

仙台教区報

発行 カトリック仙台司教区
 890 仙台市本町一丁目2番12号
 電話〇二二一 222 一七三七七 一番
 編集・発行人 笹気直哉

第一回全国会議へ向けて

第一回全国会議へ向けてのカウント・ダウンも次第に熱が入ってきたようです。約一ヶ月半、五十日程です。この全国会議のために仙台教区の各地区で、信徒の方々のご意見が様々な形で、活発に出た模様です。

宮城県は七月に、青森県は八月に、福島県では九月に、そして、岩手県では各小教区毎に形式はそれぞれですが、内容の豊かな、そして、様々な角度からの意見交換だったようです。

今年の各地区の特徴は、まず、広く意見を集めたこと、次に、自分の足元から見直そうとする姿勢、そして、できることから実践するのだという決意にあふれていたことが上げられます。

集まりの名称は、「信徒大会」、「カトリックの集い」等様々ですが、どの集まりも例外なく熱気にあふれていました。

仙台教区全体が同時に動くことは、当然ながら困難なことです。しかし、各小教区、各地区毎に「自分の問題」から出発すれば、こ

れ程すばらしい集まりをもてるのだ、という確信を得ることができたのではないのでしょうか。以下に、青森県と福島県の報告を掲載します。

青森県

カトリック

信徒大会



昭和六十二年八月三十日(日)八戸市の白菊学園高等学校で「青森県カトリック信徒大会」が行われた。

テーマは、ナイスの課題に沿って「開かれた教会づくりを目ざして」とし、講演は、佐藤千敬仙台司教により「仙台教区十の課題について」とした。仙台教区の問題を浮彫りにすることにより、ナイスが見えてくるという配慮から、県の東端に位置する八戸市に五百人近い参加者を見たのは、如何にナイスへ向けての関心が高いかを示すものであった。各小教区が、創意を凝らした「名札」を胸

に、まるでナイスへ出席するような心算で参加したようであった。

八戸塩町・鮫教会が事務局となつて、本大会のあり方が慎重に審議された。分科会も六つに分かれて、何処にもある形をとりいれたが、今までのように、大会が終わったら終わりと言うのではなく、二年後の「県大会」へ向けてそれぞれの小教区では、「今、何が問題なのか」を探り、「では、何ができるか」と判断し、実行すると言うところまで持つていく。

二年後、成果が上がればそれを評価し、困難点があればそれを見極め、実施できなければ、何故できなかったかと、一緒に考えていく大会にしよう」と「宣言」の中で決意した。本大会が、「出発点」であるのだと、参加者は自覚した筈である。

閉会式では、須郷清治氏(浪打教会)が、力強く「二年後会い集う時、私が、教会が変わったと言えるように集まりたい。」と言う意味を込めた挨拶をして、参加者の絶大なる拍手を浴び、大会が成巧裡のうちに終了した。

尚、当日、塩町教会の婦人会(石亀良子会長)では、「仙台教区カテドラル建設基金」のために、手芸品、パウンド・ケーキ、デザート・シユガーを、鮫教会では乾物類を販売し、その益金五万円を送付した。

又、仙台教区より外国宣教へ派遣する司祭への補助という意向で献金をしていただいたところ、二十六万四千七百九十一円の多額の献金があった。

福島県第十七回

カトリックの集い

第一部、第二部、そして第三部

実行委員長 得能 育夫
集おろし 語ろし 進もう

「福音宣教のため新しい一歩を踏みだそう」をテーマに、県の集いを準備しました。

全県下の信徒が一堂に集まり、心ゆくまで話し合えることが理想です。しかし、これは出来ない相談でありますので、少しでもこれに近づけるため、地区別に集まりをもつて話し合いを進めてもらうこととしました。そして、ナイスの三本柱に一本加えて、★「日本の社会と共に歩む教会」(会津地区責任者 成田 信氏)★「生活を通して育てられる教会」(県北地区責任者 若林 宏道氏)★「福音宣教をする教会」(県南地区責任者 倉林 一博氏)★「世界の人々と共に歩む教会」(浜通り地区責任者 吉村昭三氏)の四つのテーマを設定し、第一部としました。

第二部

九月十五日敬老の日、真夏を思わせるような快晴に恵まれ、浜通り小名浜教会に佐藤司教様をお迎えして県のつどい本番が実施されました。県下で一番大きな小名浜の聖堂に司教様を中心に司祭十三名、県内各地より信徒及び修道女二百六十名、また、八矢浩氏(湯本教会)指揮する聖歌隊三十名(いわき地区ママさんコーラスの方々)と共に、にぎやかにそして厳粛に共同ミサが行われました。信

徒側の熱気に応じてか？司教様もハッスルな説教が大幅に時間超過して後の講話の時間を削られる一幕もあり乍らミサも終わり、第一部の成果が、会津地区 生亀 照雄氏、県北地区 菊地和子氏、県南地区 倉島 一博氏、浜通り地区 石井 俊一氏の各氏により発表されました。各発表者は地区の成果が多過ぎて時間不足で困っておられました。

昼食後午後の部に入り、司教様の短いが厚みのある講話の後、竹内正也先生(湯本教会)が「開かれた教会づくり」の要点について話され、最後に、相沢 裕氏(県連絡協議会会長)によりナイスへの県代表、モレン神父様(小名浜教会)と金子 力氏(湯本教会)の紹介と閉会のことはでつどいを終えました。

そして、第三部

県のつどいに第三部は計画されてはいませんでした。常にも第三部が必要となりました。常に言われておりますが「会議は会議そのものよりも、そこに至る『準備過程』と『その後』が大切である」と。県のつどいも正にその通りで第一部のつどいで各小教会、各地区で燃え、さらに増した熱を第二部でさましてはいけません。総りに向かって進めることの必要性を、各地区の発表者も訴えておられたし、司教様も第三部はあるものと信ずると結んでおられました。会場の全員も深く感銘した様子であり、また、タイトルの「進もう」にも合致することなので、是非実現して行きたいと思えます。皆々様のお祈りと御協力に深く感謝し、御報告致します。

第21回 仙台教区司牧評議会開催される

九月二十三日午前11時から午後4時まで、第21回仙台教区司牧評議会が開催された。この日は司教様を始め、青森県から福島県までの司祭、修道者、信徒の代表者23名が出席し熱心な討議がなされた。主な議題は次の通り。

◎ 司牧評議会のあり方について

今回は特に司牧評そのものが、教区の皆さんには十分に理解されていないという現実を踏まえて、反省や提言を本音で話し合うことができ、今後司牧評が教区の司牧、宣教に關して中心的な役割を果たしていくために、大いにプラスになったと思われる。

信徒の常任委員を従来の二名から四名に増やし、十一名の新しい常任委員も決定し、教区内の問題を広く吸い上げ、司教様を中心にして、司祭、修道者、信徒が一体となって、真剣に話し合っていくべきことを確認した。

◎ 福音宣教推進全国会議について

各県毎の信徒大会等を通して、教区としての意見も徐々にまとめる段階に入っている。全国会議の後、代表者を小教会や各種の会合に招いて生の声を聞くことは教区民にとって有益ではないかという意見が多く出された。

◎ カトリック・センター(仮称)について

司教様から特に発言があり、一月に出された具体案に対しては種々の意見があり、まだ前進はしていないが、今後は司教総代理が中心になってメンバーを選び、具体案に対する意見等を広く聞きながら、まとめていく方向である旨が話された。

仙台領内キリシタン史(4)

迫害

Sr 猪岡 庫

イエズス会士アンジェリスが六一九年に総長に送った書簡によれば「ソテロの船が出帆した時、政宗の領内には二百人のキリシタンしかいなかった。しかも、それはほとんど貧しい人ばかりで(中略)今ここにいる信者の大部分は私が洗礼を授けた。また、二年前からここにいる私の同伴者デイゴ・カルワリオもある人々に洗礼を授けた云々」とある。ソテロが仙台で布教を始めた時、やはり他の所と同じ方針で貧民層を対象としたらしい。短い布教活動の後には遣欧使節の件にかかわったので、当地方で本格的な布教がなされたのは、実にアンジェリス神父が初めてではないかと思われる。

一六一四年、京都、大坂でのキリシタン弾圧迫害は熾烈をきわめ、百名に近いキリシタン武士が日本海を船で送られ津軽に流された。アンジェリス神父が津軽流刑の信徒を追って奥州に潜行して来たのは、一六一五年であった。時に、上方、江戸の迫害の苛烈さをよそに、奥州は予想外に無風地帯であった。特に仙台藩では訪欧使節を派遣中であつたので、まだキリシタンには好意的であつた。宣教が自由であつたことと迫害を逃れて来たキリシタンも合わせて一六二〇年までの短期間、奥州に幾万人というキリシタンの花が咲き競つ

たという。仙台領内だけでも千名の授洗者を得たといわれる。この頃迫害を避けて神父達は、ぞくぞくと奥州にやつて来たが、平和は長く続かず、その殆どが後に捕らえられて殉教することになる。

政宗が訪欧使節を派遣したのは、幕府の承認のもとであつたことは前述した。しかし後には悪意に解され、スペインの力を借りて天下制覇の野望ありと疑われ、政宗は身の潔白を証しする必要にせまられた。そこで一六二〇年支倉の帰国と殆ど同時に迫害を開始して次の三ヶ条の命令を發布した。

第一、キリシタン宗は、將軍の意に反するものであるから、すみやかに棄教、転宗すること、この掟に反する者は財を没収し、財なき者は死刑に処す。

第二、キリシタンを訴人する者には地位と賞金を与える。

第三、すべての宣教師は、信仰を捨てない限り、領内から退去すること。

キリシタンの保護者をもつて任じた政宗の全くの変身、否むしろ正体暴露というべきか。事実、仙台領内の最初の迫害の例として、ある農夫が転宗を承知しなかつたので、樹木の枝に逆吊の刑に処せられたり、厳寒の冬空に全裸でさらされたり、或は絶食を強制されたとの記録が見られる。実際に殉教につながつたのは、一六二〇年十一月に政宗の家老石母田大膳の領内で六人のキリシタン信徒が斬罪に処せられ弾圧開始の血祭りにあげられた。

第四回

アジア・ウルスラ会議 仙台で開催

Sr 小川 敦子

アジアにおける福音宣教は、どうあるべきかを考えるため、八月七日から十七日までの十日間、仙台の聖ウルスラ会本部修道院で第四回アジア・ウルスラ会議が開かれた。

この会議には本部のローマ、カナダ、ベルギーを初め、インド、タイ、インドネシア、台湾、日本から約四十名が参加。基調講演に奥村一郎神父(カルメル会)全体の助言者に佐々木博神父(亶理教会主任)を迎え、各国の研究発表と宣教活動の報告、日本文化の体験として松島の瑞巖寺、塩釜神社、輪王寺訪問等が行われ、十日間熱心な討議が行われた。特にインド、タイ、インドネシアでは物質的貧しさと共に未開発地域も多く又不正義による圧迫もあり、その中でシスター達が力強く活動している姿は感動的であつた。又諸宗教との交流も活発でカトリック校の中でキリスト教だけでなく、それぞれの宗教に応じた宗教教育(ヒンズー教徒にはヒンズー教の教義)を行つている。又子供達の教育も生活の豊かな家庭の子供には貧しい子供を助ける役割がある事に目覚めさせ、貧しい子供達はより苦しんでいる貧しい子供を助ける心を育てる教育もされていることは素晴らしい。

助言者の佐々木神父は、理論ではなく現実を見るように、そして私達に今、何が出来るかを具体的に考えるようにと助言、この言葉が今回のアジア会議を成功に導いてくれた。

訪問宣教での出会い



女子パウロ会 崔^{チエー}友本^{トモモ}校

七月九日から約一ヶ月間、私達は岩手県の花巻市で家庭訪問宣教をした。シスターと志願者のあわせて五名が、二人ずつ組になって毎日一軒一軒の家をまわるのである。カバンの中には、教会を紹介するパンフレットと修道院で作った本がどつさりつまっている。断る人やにげる人にはパンフレットだけを残して帰る。本を見せるとサッと態度が固くなる人もあつたが、心に刻まれて消えない出合いも多かつた。

主に賛美!

ある日私達は、「ものみの塔」の聖書を勉強していた男性を訪問した。彼はカトリックと他のキリスト教との違いについて質問してきた。私達は、中世になってカトリックから分かれてしまったプロテスタント教会についてまず話した。そして、これらとは別に、キリスト教を装った他の様々な宗教があることをできるだけわかりやすく説明した。最後に、今、彼の持っている聖書も残念な事に書きかえられたものだ、と付け加えた。三十分程、このようなやりとりが続いたあと彼は、腹の底から低い、呻くような声で「そうかわかつた。」と言った。そして、「これはもういらぬ。信じるのなら本物を信じたい。」と私にその聖書をさし出したのである。私は夢中でそれを受けとった。戦利品をつかんだ

よりの感じだった。感謝が胸に一杯になつてはじけ、涙があふれそうになつた。彼の心を動かしたのは主だ。どれほど多くの人々が、私達のために祈りを捧げて下さっている事かと強く感じた。



もう一つの出会い

しかし、キリスト教に憧れを感じ続けていたが出会いがなく、丁度、聖書を知りたいと思つていた時に「ものみの塔」の訪問を受けて勉強を始めて六年になる、という婦人とも出会つた。彼女の、「カトリックに先に出会つていたらそちらに行つたと思う。」という言葉が胸につきささつた。一緒にいたシスターは「やつぱり、どんなに苦しくても訪問宣教をしなくては行けない。神様を求めているのに、どうやったら出会えるのがわからずに苦しんでいる人たちがたくさんいるのだから。」と沈痛な面持ちで言つた。信者が彼女の傍にいて、教会に連れていってあげていたら、と思うと私も本当に残念にやりきれなかつた。そして、キリスト者であるという事がどんなに他の人の救いにかかわりがあるかという事を身をもって感じた。教会の報告会でも私達はそれを話した。その結果、神父様の強い勧めもあり、私達が訪問した中でキリスト教に関心のある十三人の方々を信者さんが引きついで今後も訪問することになつた。それはとても勇気のいる事だと思ふ。

私達の訪問軒数は、五千六百九十二軒。「私は樞え、アポロは水を注いだ。しかし成長させるのは神である」(1コリ3・6)

【司教様の日程】 九月二十五日現在

- 10月1日 カリタス・ジャパン (東京)
- 2日 スペルマン病院理事會 (仙台)
- 4日 平教会堅信式 (いわき)
- 5~7日 教区カテキスタ会研修会(千和田)
- 8日 常任司教委員會 (東京)
- 9~11日 カトリック正平協全国會議(仙台)
- 13~15日 三教区合同司祭研 (蔵王)
- 17日 NICE代表者の集い (仙台)
- 18~19日 カリタス・ジャパン職員旅行
- 20~21日 保育施設協・北海道東北ブロック職員研修會 (鳴子)
- 23日 教区本部スタッフ集會 (仙台)
- 24日 東北地区カトリック学校研修會(仙台)
- 25日 郡山ザベリオ学園落成式(郡山)
- 26~27日 教区司祭団月例會 (仙台)
- 28日 東北・北海道地区宗法研修會 (山形)
- 29日 カリタス・ジャパン (東京)
- 11月1日 松木町教会堅信式 (福島)
- 2日 明の星学園創立50周年 (青森)
- 5日 常任司教委員會 (東京)
- 8日 久慈教会堅信式 (久慈)
- 9日 司祭評議會 (仙台)
- 10~11日 カリタス・ジャパン (大阪)
- 15日 郡山教会百年祭 (郡山)
- 19日 カリタス・ジャパン (東京)
- 20~23日 第一回福音宣教推進全国會議(京都)
- 29日 白河教会75周年記念 (白河)